

■ 編集委員

菅澤 正 (編集委員長)

海老原康博 片桐 岳信 小林 国彦 篠塚 望 千田みゆき 名越 澄子

堀江公仁子 町田 早苗 Chad L Godfrey (五十音順)

■ 編集後記

本邦でも、ワクチン接種が漸く軌道に乗りつつありますが、いまだ全人口の10%を越えたばかりで、集団免疫にはほど遠く、オリンピックを前に第5波の到来が心配されます。前回の東京五輪は、小学4年で迎えました。小学校の教室で開会式の中継をわくわくしながら見た光景を昨日の様に思い出されます。未来への希望にあふれ、明日はきっとよくなると皆確診を持って生活しており、重苦しい閉塞感、将来への疑念は皆無でした。オリンピック自体も、古きよきアマチュアリズムが健在で、現代のプロスポーツ選手による商業主義にまみれたものではありませんでした。日本ではオリンピックの神格化がすすみ、批判もタブーとなっているようですが、緊急事態下の開催に何の意味があるのか、再考してもよいのではと思います。

さて、COVID-19の影響で、学会も大きく変化しております。Hybrid開催、on demand開催に成り、現地開催は省略されることも稀ではありません。特に若手医師は、hybrid開催を好む一方で、年長者は学会でもオフサイトの交流を好む傾向にあります。hybridやon demand開催のメリット考慮すると、COVID-19克服後も学会開催形態は現地開催のみでは立ちゆかないでしょう。

48巻1号では、原著4編、症例報告1編が掲載されております。本学の学位制度の変更と、専門医制度の影響で投稿は増加傾向です。埼玉医科大学雑誌を有効に活用頂きたいと思っております。埼玉医科大学では研究を奨励しており、様々な試みがなされております。今回は、医学研究センターより各部分の現状と報告、更に科研費アドバイザー制度について、解説を頂きました。実際のコメント等も掲載されておりますので、科研費申請の際に参考にしていただければと思います。研究マインド支援 Grant 報告書も2編掲載いたしました。

最後に長年にわたり、編集委員として貢献いただいた小山勇教授(外科学)、池淵研二教授(輸血・細胞移植部)、仁科正実准教授(中央研究施設)の定年退職に伴い辞任、松下祥教授(免疫学)の勇退、新たに片桐岳信教授(ゲノム基礎医学)、海老原康博教授(臨床検査医学)に編集委員に就任いただきました。

(菅澤 正)

埼玉医科大学雑誌

<http://www.saitama-med.ac.jp/jsms/>

第48巻 第1号

編集責任者 菅澤 正

令和3年8月16日 印刷

令和3年8月31日 発行

発行所 埼玉医科大学 医学会

350-0495 埼玉県入間郡毛呂山町毛呂本郷 38

電話 049(276)2102/2030(直通) FAX 049(276)1860 E-mail: igakkai@saitama-med.ac.jp

郵便振替 00540-6-19727

製 作 レタープレス株式会社

広島市安佐北区上深川町 809 番地の 5 電話 (082)844-7500 <http://www.letterpress.co.jp/>